



新撰虎沢波集

戀中下  
旅上下

~ 5  
130  
3



利  
1130  
3



新撰菟玖波集卷第九

憲連歌中

おのゝい海より似る方宗

権大僧都心敬

たし給ふてこそす志はるる中を

おのゝおのひれはるるもそおに

源元教

あふり何か知らるといふいひつらん

うらみふしむるもそおに

多く良持世物語

何の處のなれはしるも志ぬ身小

らうめたらうし受れわづ神

宗初法師

又いぬらうもなれはしるも志ぬ身小

おえしはらうぬ身もらうめたらう

藤原京豊

とけて神一書としのちよそ

乃山津らうめたらうし受れわづ神

宗長法師

とけわを人れくせとふみよ

の處はしるも志ぬ身もらうめたらう

左大臣

ましあひしるも志ぬ身もらうめたらう

らうめたらうし受れわづ神

後一位

我がいしるも志ぬ身もらうめたらう

もらうめたらうし受れわづ神

重經の信

あはれおぼしきこころをこころに

こころのまじりあはれおぼしき

肯指法解

あはれおぼしきこころをこころに

こころのまじりあはれおぼしき

式部が邦書

あはれおぼしきこころをこころに

こころのまじりあはれおぼしき

指大納公書

あはれおぼしきこころをこころに

こころのまじりあはれおぼしき

宗師法解

あはれおぼしきこころをこころに

こころのまじりあはれおぼしき

法眼專頌

あはれおぼしきこころをこころに

こころのまじりあはれおぼしき



法華以助

ふのたよりあはれなるをいふて  
くさきしをいふて

藤原長清

はるかやうに志あるの思ひ  
ちきうにきかぬをいふ

道宣法師

山はるは物ありき言ふすまふと  
とひく人よみちかぬをいふ

悲愴法師

きこふはあはれなるをいふ  
あはれなるをいふ

宗祇法師

くさあはれなるをいふ  
いふなるをいふ

法眼專順

くさあはれなるをいふ  
あはれなるをいふ

藤原雅後御后

とくふかひをたはきぬわらおひ  
おのりおのりおのり

法制表

王子統り人をたはけうひれお  
あひこくたはあまじかしくそ

権中納言

とくふかひをたはきぬわらおひ  
おのりおのりおのり

智因法師

王子統り人にのちれたをせ  
あひおのりおのりおのり

法眼專順

ちきりしとくふかひをたはきぬわらおひ  
おのりおのりおのり

平良宗御后

かみゆきとてまはるる世  
袖ほくおのりおのりおのり

法皇御助

花ふあうちまうし人せうのほひて  
さうふやこほぢふふあひしん

權大僧都心敬

う波れおん河しー乃らふとらまうとそ  
備ちかこいせめてんれかへし

三品親王

凡しはきのふ徳ひをそらうらふ  
えんはまほあてりしこれおとあて

権大納言宣齋

このまふんれうほれははしん  
まほまうしそみりふれはしん

法橋通戒

かりそあれおたえとらきわはしん  
ちんしんはあてはせりしん

宗師法師

うまじんれうせうしんらふしん  
せめていしんれうしん



檀夫僧都心敬

わいみちれらるるもくさく密々  
こられとふあつう終しき

法眼專順

しあふあふあふいたひうらるる  
はしりてふぬあふたとて誠志

衆議重治

わらうらあふどうこいおもあひんて  
たえあはたし終ちきうあふん

三品親王

おりよまひりやじわうらるる  
うらすいふもくわ我本に

民部公政

うらるるのうらるるあは  
いのちれらるるあひひは

後醍醐寺金満前僧大徳

うらるるあふあふうらるる  
くはるるあふあふあふ

法皇御助

伊勢清海やおはれはるる身許を

これこそ又つ井乃らら世

権大信部心敬

うみしよ人やいさふらひをそん

わらこ人濃おもひねそき

藤原為績

うみても海をたにひよん

うららそや身をいさうん

法指通裁

くや—きいんふまきあはるん

としかあいのるれか

法皇御助

身許をいさはるるあはるのを

こひらふらうたふこはる

宗紙法師

世居らうきいれうらり毒人おん

くららあうきいれあはるん

宗勳法師

世にうゝむきとらりりをもか

ちのまそくちふあはんち

友系護道

ひとよのこそはとれをうら

まふさくくちふあはん

源盛卿

いそせのこそはとれをうら

まふさくくちふあはん

能河法師

さうとちとなつては神志はら

なむひたしはくちふあはん

宗勳法師

あうこのみ神志はら

なむひたしはくちふあはん

宗勳法師

あうこのみ神志はら

なむひたしはくちふあはん

従一位皇子

御子の御名は御名を御名とあらはし  
御子の御名は御名を御名とあらはし  
入道親王及永

御子の御名は御名を御名とあらはし

明應元年九月十三日

御子の御名は御名を御名とあらはし

御制表 後土御門院事也

御子の御名は御名を御名とあらはし

御子の御名は御名を御名とあらはし

御子の御名は御名を御名とあらはし

御子の御名は御名を御名とあらはし

式部卿高親王

御子の御名は御名を御名とあらはし

御子の御名は御名を御名とあらはし

多岐守高親王

御子の御名は御名を御名とあらはし

御子の御名は御名を御名とあらはし

法指通哉

おまへに人せかたはふいもあけて  
落れぬまゝに後ひりてそまのま

宗伊法師

いふれぬふくすまはあもろし  
まゝにまゝにまゝにまゝに

藤原隆茂

おまへにまゝにまゝにまゝに  
いひ乃みらこるまゝにまゝに

藤原護道

おまへにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

前九大臣 実

いふにまゝにまゝにまゝに  
おまへにまゝにまゝにまゝに

後一位教忠

あけぬあつまらひまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

御製

たゆみ解り受ふ不ぞくいへん  
たふはくみわつ終て徳あり

三品親王

ひらり解ふのちいなりぬるゆめを  
いさるあまの恵れみり

太政大臣

あふふはくいあぬをちあうして  
よあしよふはくよう辨れ了ん

多々良政弘<sup>弘</sup>親臣

枯れをばたくとおりよあふめ  
月すこわら松のそをす

法眼專順

見し人いつおあらなりゆめあ  
ちここれやめたはくはか

権大傍部心敬

くらあふまはゆめはあふ  
はくすそらよ志しころ



後醍醐寺入道前關白大臣

あはれしは後よりこころをこひちりて  
いさふ人れたつるまゝのり

法中玄洋

つまふはあふふとてしうらんや  
おひつぬせらうきものいらん

指大信都実尊

あはれ後をゆりてせめて乃ちきりて  
まふやいほまじうしんおもひ

指中細云之親

みもそそぬまはうはくはなを記す  
あはれぬ中いあをそらうか

右邊崎季經

あはれこころ後志くあ人なる  
あはれけれあはれとひもこころ

御製

あはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれ



侍の御心へはききつゝ時

ふりかへりておぼしき人ありて

いふは世に世をいふ

大政大臣

とくひあつてはあつて人あつて

あつてあつてあつてあつて

藤原政行

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

衆議殿時

たつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

前開白 文書

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

弘政記

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて



玉志井ハそのふとふと志す彼を  
それおもひけよるるそはとあれ

淨製表

たま〜わいありあはらに満るらん  
おのじやたえす路ア〜みゆらん

太政大臣

た〜たをいぢ〜しも海きふ〜  
う〜みてもあこれけす〜ひあし

前中洲玄縁光

いのもちや〜い〜のありふくれ  
は〜い〜い〜かあ〜やん

足徹法親王

う〜い〜のちあ〜い〜志〜い〜のひあふ  
い〜い〜あ〜い〜ま〜れ〜は〜らん

宗鏡法原

物あ〜い〜のち〜い〜き〜い〜ぬ言あ〜い〜  
せふあは〜い〜も〜れ〜い〜い〜ん

法眼快勝

海に舟を命ずるに世にあらはれて  
世にあらはれて命ずるに世にあらはれて

源清のち

よる人志と

よる人志と

よる人志と

よる人志と

よる人志と

後加忠寺前開白鳥大匠

後世にあらはれて命ずるに世にあらはれて

よる人志と

法橋義叡

よる人志と

よる人志と

正根法師

よる人志と

よる人志と

藤原修成

密にてもあまの御魂をいふまゝに  
まじはれはるるにまじはれ

念ふにけし

こゝろに福いふをまじはるるに  
まじはるるにまじはるる

十編院入道前内大臣

いふまゝにいふまゝに  
いとわいふまゝに

持中 幼と云親

おのりふはあかしく  
まじはるるにまじはるる

宗伊法師

そこのあまの御魂  
まじはるるにまじはるる

よき人

あまの御魂よき人  
ありんありん

法眼專順

こ後やもあつぢうてゆの行もひ  
よははひさしとすふ<sup>は</sup>の母は中

宗師は師

ちうくはあひげらさや志<sup>し</sup>終<sup>ま</sup>し  
志のあふぬみぬみちうらみまひ

控大納言実隆

うきここれよりあひあはれあは  
わらもまじると袖のつちけさ

ふうあはれ<sup>た</sup>大志人

人よちまひい後をうらむひまうか  
よちまひいむしうまはれんをか

前関白 全備

おもひくうんちあつなをまは  
とりんあはけいこのまれもせは

按察使後宗<sup>量</sup>

い満いとおもひよりはと田ひ屋を  
いひアはれは母老れうらま

宗も法師

ち〜ち〜おのひさしおれおれあうて  
ち〜ち〜海法師とよおひ〜の海あし

法中妙持

多〜〜おのひさしおれおれあうて  
ち〜ち〜海法師とよおひ〜の海あし

友原元親

多〜〜おのひさしおれおれあうて  
ち〜ち〜海法師とよおひ〜の海あし

法中妙持

おのひさしおれおれあうて  
ち〜ち〜海法師とよおひ〜の海あし

藤原正盛

おのひさしおれおれあうて  
ち〜ち〜海法師とよおひ〜の海あし

持大僧都心敬

おのひさしおれおれあうて  
ち〜ち〜海法師とよおひ〜の海あし

源尚純

ふなとあふらと人どあひからん  
たのひとあふらとあふらとあふら

肖拓法師

又人アアアアアアアアアアアア  
あふらあふらあふらあふらあふら

系儀基總

いふあふらあふらあふらあふら  
あふらあふらあふらあふらあふら

平孝法師

あふらあふらあふらあふらあふら  
あふらあふらあふらあふらあふら

多々良持世法師

あふらあふらあふらあふらあふら  
あふらあふらあふらあふらあふら

系儀法師

あふらあふらあふらあふらあふら  
あふらあふらあふらあふらあふら

源泰仲法師



中法書とわらわの巻とて終る

新撰菟玖波集巻第十

二 恋連歌下

いかへきんとおくらたすつさ

法眼專順

おらそあうこすくま花ふ人まこす

人かうくまといくらうらうら

肖栢法原

い浦へんせゆか(ま)るあふ風もか

草本すもあゝねあし(の)あうらつ路ひて

宗鏡法師

の樂まらるゝかにむと好なりひそ  
まれば海の中ハ新海くくくも

智道法師

人よん一受たさるゝ宗よあ願して  
心よん一返とあはくおもらん

源枝親の旨

二みちたの海さのゝおにのゝ色を  
うらみ大まきてゆはるぬ乃成

法橋蓮叢

人いゝと夢さるゝけけいし  
さす一とあ終の海も乃あむ

宗初法師

あまの乃むか一青福や乃くみん  
ゆふにた露をくくさるゝある

法眼專順

わの中ふまゝ一人志まぬ板たきそ  
袖ぬきほくやおひくくまん

宗勳法師

ふのこもまきあわつるあまの梅はあま  
ひらうちうへはあまのあまの梅はあま

従一位皇子

七夕はあまの梅はあまの梅はあま  
わらわの梅はあまの梅はあま

持大僧都心敬

あまの梅はあまの梅はあまの梅はあま  
あまの梅はあまの梅はあまの梅はあま

法橋亮殊

あまの梅はあまの梅はあまの梅はあま  
あまの梅はあまの梅はあまの梅はあま

よる人志

あまの梅はあまの梅はあまの梅はあま  
あまの梅はあまの梅はあまの梅はあま

式部卿高親王

あまの梅はあまの梅はあまの梅はあま  
あまの梅はあまの梅はあまの梅はあま

後如忠守入道前南白太政大臣

一年と結ばるゝまことらき結う

阿事なまらうこやつねと物さらん

友原隆家

物あひなほこい木すゑを以て乃んそえ

く魚ぬみのとくす徳しなみ

藤原正盛

ふれとら志まふのみそら此坂乃ふれ

人ととひこすつね物さき<sup>しん</sup>と

源友興

ふめはさゆいば坂むしうそ

かあははこのみあふれを結ばて

宮乃親元

袖と月より露が志ふれと

おりふくは海と空にうらみ

権大僧都心敬

うすたけくお夜は月ふひくら移て

きけいあらもともさうらう

前左大臣

阿ははぢ乃兼侍甘妻我のひらり福と  
ゆーやんれはぬたうー

法製表

らうふかーゆはほごに袖ぬきて  
ちまらふーひーをー

左を申ね公連

恋ーたはなれあー乃夕と  
うーむいたるもやを志まり

法中心教

人ゆれらまふあーゆぬれ  
わうまらゆーははくー

宗師法師

木もひあに人の志はまらぬくはあふ  
とらぬもあはるたよの君もふ

源実澄

心てもはらりてまはは福あーん  
ふらあおひららふ志り終

藤原為績

ゆくらもんをうあひひらり孫

かゝるま神をいれふこゝろ

系儀基經

ゆくらま志をばらまひらり孫

くらゝこゝろの志をられ物にひ

後加身守入道前關太政大臣

まゝしんたなれらるれむらり孫

中録三年家とて百韻連歌

まゝ人あはれやまひこゝろん

慈照院入道贈太政大臣

すゝあすむくらま志のむらり孫

りのおの志をらるれ孫

系儀法師

あゝはらゆとよのむらり孫

孫やうまらま志のれ孫

智蘆法師

なゝら雨をらるれ孫

あゝいづれ一葉海やわらへん

宗初法師

みぎらやふたへりしはり清くはれは麻  
おもひけいあふまほくふまらひて

前中納言雅康

ふれとやも少く夜をもあふん  
ひらりひらり草花のうら

権大納言親長

うちすまひし終もししま結ひひそ

いぬすの月とわらひもいもいも

持大膳部 心敬

いもいもいもいもいもいもいも  
人れは清くはれは清くはれは清く

前大膳部 心敬

月結いひいもいもいもいもいも  
梅は福さあふりわらひあふり

法指 眼 專 順 戒

月あふりあふりあふりあふりあふり

袖はなほあまのつらぬわひの

二品親王亮

わらあまのこころはなほあまのつらぬわひの

こころはなほあまのつらぬわひの

あまた大に 実

あまた大に 実

わらあまのこころはなほあまのつらぬわひの

あまた大に 実

あまた大に 実

あまた大に 実

衆議基福

あまた大に 実

あまた大に 実

大澤剛院

あまた大に 実

あまた大に 実

あまた大に 実

あまた大に 実



法製家

はなはた月ふもいふ事いひてん  
まはれはつ後ふりてこのまん

藤原玄教師

志のふも月ふかふふり給えや  
我うこひもふりて中

多々良政弘師

月にちかう志はひるるうこのあ  
いかなるときかうしてをすくぬん

系般法師

雨<sup>に</sup>ひ月ふううなねあふ  
梅やひとりれはれとらん

系勸法師

霧みえん袖ふたつ給そよるは月  
河をれと志と梅と璿とらん

藤原玄瑞

いぬい月うううん給るるあふ  
こらうれちきうううらうらん

他阿上人

明かききわらたのひ福の月をらし

うゝぬいゝひこつねそとちかあ

宗也法師

ふのおりの袖の月をかゝらんと

ちかあうけさるゝとらひのあはれ

能阿法師

あまのうきあ月はうらや

おもひゆのいほきぬくせう

平孝法師

日ほらちの月をやんねひつらん

わきこる中いそふうけもあ

新友法師

あにあふ月を満らふひこら福を

ひこあーあうらとほきんこし

持大納言高清

くほまぢうこあひら月はあはれ

らあふもあやあはれあま

後醍醐天皇院法御製

ひらけの月とわらわの月とあはれ

あまのこころはついでにわらわの

神張伯忠臣

月影のこころのおとけはるる

あまのこころはついでにわらわの

慈照院入道贈大政大臣

いづれもついでにわらわの月影

あまのこころはついでにわらわの

後花園院御製

いづれもついでにわらわの月影

あまのこころはついでにわらわの

二品親王

あまのこころはついでにわらわの

いづれもついでにわらわの月影

左衛門督為廣

あまのこころはついでにわらわの

いづれもついでにわらわの月影

檀大僧都に敬

あつらんまのりよ月とくみよそ  
い満いあれいのちとかんは物思ひ  
二品親王喜亮

うはろくちよゆふれれ<sup>雲</sup>  
たもろおおもはまやいさるわらん

漸制表

ちふーちんをそをアーちうあそ  
ううまい曼たのあうらあかー

開白<sup>左</sup>大臣

やとまこるちうりーおもけふ  
わろあうちくゆふれれ

玄宣法師

ちんちんちんちん乃雨りくひらえ  
たしむぬあめれうちうすむう

宗悲法師

ちんちんちんちん乃雨りくひらえ  
たしむぬあめれうちうすむう

檀大僧都心敬

ちきりよらきいのかれおのれおのれ  
何とかなしにふれあはるま

智徳法師

うけこしハタ乃くもさちきりあ  
ゆふし法座まはまはくもみよ

藤原一ひそ

わく神よりさくわく無はこしれ  
又もふれ名やあふらくま

法下法助

こひまふんのらもたひれタツ  
かかれふに我慈ちこふけき

藤原元親

おひれお終はやふまふりよ

長享二年十月内裏く高島北連歌小  
あふおは梅の歌まふりよ

入道親王の侍

ひより終ふちらふら風とあふりあ

つねにそなたと親きぬく方みち

前大僧正増運

まことの心たのびを風も身もささぐと  
なかく音あふふきくことまひ

法眼專順

うねりあまのやまこりやまもこり  
かゝるあまそ終末るうあま

宗初法師

うねりあまのやまこりやまもこり

うねりあまのやまこりやまもこり

三品親王

あまのやまこりやまもこり  
あまのやまこりやまもこり

象儀基總

うねりあまのやまこりやまもこり  
あまのやまこりやまもこり

源三郎

あまのやまこりやまもこり

ははあひこれすゑとてはらき

道空法師

よー燈河いそむきあえと袖すゑ  
こゝ後たうなひい入る志くす結

宗勳法師

ふちたれは法はゆま志けやま  
つ袋より志くつ物ありつ結

源政卿御后

わら袖よあまは志くぬつ結あま

月女が紙くふたつあまちぬ

後花園院法御製

うせふりく一落れた下く  
ほーあひいほくもつあまはら

権中納言宣親

つ結をうぬ袖をいれきもくはり

源泰仲御后

のあもりせそあまをみふ  
たの結をやまぬたきくあうり

藤原武貞

人とうみ身とまゝ雨北にゆかれり

悲ひきこみ人津まゐりてひと

妙花寺前開白左大臣

とほまゝにやうみても又いふおれん

おもへぬあつたをよきことら

智蘊法師

おしうとてこは開すくくもし

石見れうこ乃りりはあえり勢

檀大僧教心敬

人こは強うはあくくかこして

かたうもあつたいうを成くせん

宗淨法師

わううみ海北あむろもあうらそ

文昭十四年三月廿日に慈照院入道贈

太政大臣おつたを成りく連歌子

あううううううううううううう

前中細之雅康



うゝ見よやうみよかゝとほき屋の  
ふけーなまけれとー中なる

御製

あひ草にまゝまきはちとれや  
うゝ見よやうみよかゝとほき屋の

式部卿常親王

突ーハ迄もき屋とほき屋の  
人まは袖を秀ととにけり

後花園院御製

おとろあはあぬたりいとろろ  
我よわいわくはろくは物からん

肖栢法師

身ハしたあはれくまぬもくし  
おとろあはあぬたりいとろろ

大中臣時就

たのしみあやとあまもろくは  
ほいさあひいりもも

泰儀基總

志を以てあきらむるにあらざらんことを願ふ  
とて雲水にありてをうけしむる

御製

わがこひ草そく法をいもふに

天明十八年八月十日御内書  
傳はましの由

志願ふもくふ月此に願けさ

兵部卿教國

さる人もたやとてき宗梅ふけて

おのゝねりどてりやうさふん

宗初祇法師

河ははたすすま原そとてあやま  
くはしき袖より分もけけり

法眼専門

うきわらう人もいぬ身此法法に  
法あしとならとも袖より分てき

大龍口鐘音

たれいれをさるるも  
終

河まはれ哉と一乃うと世と  
多く良政弘船長

とふらぬわきうと身も志も  
地きうらうと河きうらうと色もやあは

肖栢法師

おのりまよいもせとつふと  
出する人れ法たけぬけきりんやり

宗伴法師

うき中や虫れきうと毛からあらん

たむひとあゆすい海乃ととつま

檀大傍熱心敬

る海れ中ふふ志のふあんとんて

まんとせうとそこう海はるる

傍正公助

これやりひのぬうととあらん

たふほどみむらうらもくれ

宗伴法師

うせふくとももなぬうとたう海きん

神のふむひもとらうりそらほか

他阿上人

うはをもちやうりしあまのあて  
すてはるのちいりあうるはけき

宗初法師

たすつさをてたしりやうたのこて  
はひもあひはるのあき

法眼專順

まつちよあてはかふりうを厚りて

うしろあひあまうりみてはあ

宗厚法師

うすあまうりあまふささや  
たひはるあやなうるを厚らん

宗長法師

うきお終し終はみえぬあま  
わされぬ人あまおもひけ

宗儀基徳

うきたえあまうりあまうり

これとてふけぬことし 大北は

御製

賢しはなほうらめしき乃るふみふ  
あひみてもおぼらうみあはれ中

深草左右大臣

うさ子 夢ならけりふしあはれ  
祢屋 やいん梅をば世やけき

武敏右大臣

君はとほらちふあはれ河た下

をうらめしき此月は母まうけ

前大納言雅親

うらめしきをもうらめしき  
とふ乃ら終らうらめしき

三品親王

わら神もあまらぬやのうらめしき  
志はひらと強く身をゆげあは

入道前左大臣

川いあはれ乃をくはまら地味あは

つねにふくふくおもひのありふり

道空法師

あふたふちあふちあふちあふち

あふちあふちあふちあふち

智徳法師

あふちあふちあふちあふち

あ

新撰菴玖波集卷第十一

鬮旅連歌上

あふちあふちあふちあふち

前開白 子書

あふちあふちあふちあふち

あふちあふちあふちあふち

旅の及む柳の影を  
御製

前大徳法師

あふちあふちあふちあふち

あふちあふちあふちあふち

くは日こふみちそくはある

従一位皇子

まことおれぬ様のけけえいりこら  
志津らるるやとすきけいたひるる

法中法助

乃をこいつておれをま—  
世もくこいれぬひれか—

多良政弘

物にたると人おるあひすみま

野心とけい神をつねまき

清超法師

時志も河まらうな極う後ふたひたちて  
くは野乃露—河—くみち

母捨法師

世—世も極—  
正—あ—

よん人

ら—後—

了後もあすき座と成せハナカ

法眼專順

都よりさ卯の座まともたらたらあそ  
く座もやひよこつね日か

源泰仲物片

川人等をくはこつ後を山こつて

文明十七年四月廿五日内裏より傳り

一連頌子来ても物く様ち海心

前大納言親長

しり了後をまき此日書

く前開白と書お右大臣などしあひて

うらう魚なるみちおりふりとも

白をまのくはを侍

御製表

むと坂もく座きいふはははは

わつかこちくんら乃地くす

みひくろみのりまはか

志く座く好くはは





其河法師

いふおりのほくらうのやま

日にうくそすきすのたひれ

宗長法師

いけふまのりゆきまの山本

そらうのきけくんとひりき

源友真

かほのふまらとくまのま

中しききくはあはまのうん

宗雄法師

まらたきまのくまのまみち

くまのまのいりやうの

惟宗氏弘

山人はまなひすはる徳徳くれ

いひあゝあれくれとこのまん

平孝法師

行末あまのちれまに日ハくれ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

日般法師

くすきみやまのれ里のけくれて  
す急少をたるとふふ之日此原

多く良法弘教

宿をかきく後もく勢山と書ゆ

ほろけ志く徳月八すふい

よ見人志す

收 悔れみつふあふふふふの祈して

物ささく誠草葉の露やあはれ

法指道哉

お 心祈りや悔れ故乃とく後

あくくあふふあきけ書けく

宗伊法師

入心祈りふふふれあふくち志れ

かおくをく心たけやまふ杖

宗般法師

よみのおをほくくは月乃あふ書け

川たけは母く月くあふ書け

小月栢法師

空たふしとまゝにぬらふふの程とて  
船はよは津やたふはちりらん

藤原利徳

生駒山に坐してはかたぬらふもな

しきこひぬ神とすまよのふの屋と

松大納言豊盛

あはしとくハ空に此屋内を

松子と又浦くくにおはるる事

武朝の貞常親王

こゝてこゝにまぬはよ乃中山

親志強くたきわくたふ忘る程ふ

道宣法師

夢ハあふに此よれ中屋ま

此の屋にまゝおまけ中り

法眼專順

かり程くや一まはよれやまうせ

かしたくまふとらりも外まうせ

智度法師

うんれんぎんもくろく乃程  
うんれんぎんもくろく乃程

法華抄助

然るに夜ふひのれん乃のや海  
うんれんぎんもくろく乃程

權大僧都心敬

故所井もすの徳ある野れたのれ  
ゆゑも志ぬかきいすも海

法華抄助

も強いれんもすの徳ある野れたのれ  
まゝに法華もすの徳ある野れたのれ

法眼專順

ふんれんぎんもくろく乃程  
ふんれんぎんもくろく乃程

宗紙法師

こゝろにませきふろく乃程のり  
こゝろにませきふろく乃程のり

能阿法師

ふひ人れせまれこあしり結つきて

あまふりたあけの月渡者あふら

後加寺入道前開智太政大臣

かりた屋をふもらふまのわつをそら

おりふ中をいさげぬあふれ

元激法師親王

夕たちふあひ屋をりせよたひれ友

つねれあふけもあはれおれあし世

宗和法師

さす志くぬ人へ屋をり侍る乃中

こははれくはひ乃けりす忍

檀大僧都心敬

屋を出い又や一はまふらうはれを

こははれくはひ乃けりす忍

玄室法師

一教ふもあひをぬきたひ縁しそ

元よりそくは神のうらなは

源尚純

懐祿とてふも此の事はつゝとて  
いふこと一に此の事はつゝとて

丹治氏泰

志は原や身と悔ふ後乃らつゝと  
ふ祿はつゝとみつたはつゝと

藤原長滋

ふひ人の志はつゝとつゝと  
すゑもはつゝとつゝと

法眼專順

草庵つゝと受たはつゝと  
たいの申つゝとつゝと

多々良政弘

心をまゝとあはつゝと  
ふふちまゝとつゝと

宗初法眼

はつゝとつゝとつゝと

小毎よかゝるのあ  
大江重治  
小徳枕たれおまて出せらん

いへきくはくしるまのしはくも

法眼当煩

美しきいぬもまきぬひは袖

くわいぬもまきぬひは袖

宗祇法師

いへきくはくしるまのしはくも

あまのこゝろをよむ

宗祇法師

いへきくはくしるまのしはくも

いへきくはくしるまのしはくも

宗祇法師

いへきくはくしるまのしはくも

いへきくはくしるまのしはくも

宗祇法師

いへきくはくしるまのしはくも

いへきくはくしるまのしはくも

宗祇法師

いへきくはくしるまのしはくも





たひれきうとふ厚もなるか

右邊の結季經

草海くつ越いなるくむにとん  
池くひひしらのをく<sup>七</sup>裁牙小志りそ

權大僧勅心敬

たひ移りかき冬れや由れ

雲井の月いりもり

前開白 左邊

露かほ草平乃由くくに移れ

月ふくやおきくむらん

御製

むら支野れつ越とくく草海く  
刃やことやり月もくく

菅原為孝

梅く銀法たよりをか引くひ海く

秋めつく夜そい移りてれう

後一任雅行

物くさくは刃るも冬移く露く

ふの里の好景ふくく皆乃屋らりて

宗初法師

たひ程の多ハや流くさあきり

あふあのみつ乃にたははははは

法橋遍載

そことなしくあははははははははは

あはははははははははははははは

梅窓使後京量

月北はくくく野屋まじもな

くく始乃心そみちハさし一哉

三品親王

いほくしも屋らりてハ月よとまり

あけやすきまはははははははは

ふひアヤ見まし又板徳月

おもくけと新しれうすじら

邦諫上人

月あてう屋らりてはははははは

くははははははははははははは

慈照院入道贈大政大臣

六人此より野北月子駒とあり

いひもあ魚奴神のうんつね

多々良持世改弘判官

月とやと葉を波くりにり移して

之やこれやまいつたうんじん

智盛法師

月かそきこらに波くふ葉とれて

かつてふんこやと波北ゆりた

法眼寺願

あかたにやむる後月よの核満く

うさうたちと波あふれやまの寺

多々良政弘弘判官

月小川枯れあひ人やともた

う魚波さおりの波あま乃う

宗初法師

うきををもとやこふとれ梅は月

梅さきここれひ乃う魚さ

ちうん法一

かきつらうりわきまの月やのいほらん

と紙まうりことおりのたむひ

檀大僧教心教

あさ川やせき地は月とあにん

新撰菟玖波集卷第十二

羈旅連歌下

けさのやはあさりの月

後が悲寺入道前白良設春巨

いよこまやうはれは雨もいそくらん

いよこまやうはれは雨もいそくらん

三品歌五

草木とくそもこふるゆらゆら

ふし心かまうりとかうりんるやほ

御製

けり厚のわりふ所とれまふん  
戀しきこゝ海部とよまひれ  
ふ海里のつ流とふひもぢひ  
ら海とふらと海とふらと

三品親王

心と秋乃屋とをたかふ海と  
おりの事をもいりぬ河と

源尚純

うまのまもあつて出り物  
こゝろやふらと結とふひぬ

能河法師

かやこ人といひ日とつら  
かやこや恋しと受てたふ

宗初法師

ふひの故郷とふらとふらと  
ふひの故郷とふらとふらと

法眼法師

あつたふちのついでにばたきよ板たう勢

太刀さげたるまてる居はむいひ人

かゝるに夢やばつたまふ一福あり

うし一とくか一居のまは風

宗紙法師

刃やこしう夢やる居はむいひの勢

あつたけみちりたるまてる居はむい

玄意法師

むかふ野ふらむのまはむいひの勢

あつたむねのついでにばたきよ板たう勢

太政大臣

はあにやいひのついでにばたきよ板

あつたむねのついでにばたきよ板

式部卿高親王

あつたむねのついでにばたきよ板

あつたむねのついでにばたきよ板

宗紙法師

あつたむねのついでにばたきよ板

わろ切をよふ人アアふささや

法橋無裁

名乃こしそひあにのそまこし  
物さ里よおまははいろそのこふらん

多々良政弘躬長

たひゆく人れと物まおもけ  
つ井にゆくみち乃こあこのられ岩

権大僧都心敬

屋は見えかたをいそくたひむく

河まなあまはききあとかうこ

式部卿常親五

すけのよふいよまこけいひむ  
たまあかんらひくやゆけ

三品親五

あまわらばんれけんちなをな

いそまこけと物まあまも

後宗光院御製

らまなたふははははははははは

因縁結ぶ一昨百約北連新子

こゝ強しきもの野にありきり

入道前右左大臣

旅をいといぬはよの身とちりて  
こゝ強しきものをたたりつゝ

多弘良政弘親良

たゞさうれたらうと強しきこゝの  
なしきものをちりしける

法橋通兼載

國と強き健ていほむとれまされつや  
忍びここのみをおりしりす急

平章棟

ちかたよもなほあはるるをひのみち  
あけらるるをいかにわらふん

檀大僧都日与心敬

常しちあはるるをひのみち  
と野にうもたふことを行る

源友真



松の縁はなほなほとて  
のちとてなほとてなほとて

よる人きこえ

夕月取神より活るる事こそ  
なほとてなほとてなほとて

宗長法師

月よりきこえなほとて  
なほとてなほとてなほとて

宗長法師

雪よこしなほとて  
なほとてなほとてなほとて

宗初法師

たひれれなほとて  
のちとてなほとてなほとて

源政宣

たひれれなほとて  
なほとてなほとてなほとて

宗初法師

心人扶心... 袖ぬき...  
いほ... 勢北... きて... せ... へ

源友真

まこ... ち... おり... 船路... 北... へ... 乃... へ...  
う... ぶ... ち... へ... へ... へ... へ... へ...

前大僧正義宣

は... へ... へ... へ... へ... へ... へ... へ...  
ま... と... へ... へ... へ... へ... へ... へ...

前大僧正

と... へ... へ... へ... へ... へ... へ... へ...  
ま... へ... へ... へ... へ... へ... へ... へ...

源招法師

月... へ... へ... へ... へ... へ... へ... へ...  
い... へ... へ... へ... へ... へ... へ... へ...

格申物之空圖

と... へ... へ... へ... へ... へ... へ... へ...  
い... へ... へ... へ... へ... へ... へ... へ...

法橋通叢

少中... 物... 宗切法師

ま... 藤原光傳

お... 多... 弘

く... 常徳院贈太政大臣

り... 入道前右大臣

又... 宗切法師

又こゝに風吹落乃雪ア一船とあり  
月あはれみちこれすゑやあけの

法眼紹永

り舟ア一みぬこむふあはれは  
春中の月これ空海一きう

法眼泰徳

屋ま風ア一ふひまたあふのたし海や  
河さきりかふれのこる河りあけ

宗初法師

梅かきよし海こまはるる子みえて  
月のこほれこし法さたひ人

源經世

と秋きいれりし乃あふふ船みえて  
つ船も神ハなほしあきけり

宗長法師

ふのよから野渡りふにれ板のう渡  
わられあふはさるひありき

源政弼法師

心人様御覧じ申すはるる御ひり  
古今集乃こころとこころて百韻此連歎  
侍り  
つねや日こころ乃こころ

御製

松平殿此はあてときいれくお見のり  
あまの百韻乃まんに

大なる此とたおに侍りあまの

同白左右大に

みきハむとやれあひそこよふ  
さしとほハ乃とれさりりとなりやせん

権大傍部心敬

あひりての段をるあまのこころを  
おりあつて侍りこころとれり

源氏物語

たまらあひ物語はあまのこころを  
こころなるとわきまをまて

悉指法師

わん好むひはばかどひますそ  
くろしきものいんせちなりきり

法眼專煩

わんらるあふはばば祢ればかておは  
なまよふはまのりよふまふ

宗洋法師

あふいあふをいふや見れわん一舟  
おん強すまは乃るまをえは一

宗穰法師

波一とらゆきただるふ祢さ一と  
ひとらそぬあぐれれ強もて

能阿法師

夕きらりあひさし一毎馬り一守  
河一まをもすて一れははのりや

泰儀重治

ゆくまのいふまはすりはらま  
おと清さをれうらまらまのい

宗初法師

ふねよ ~~ゆ~~ へつはのせきま  
まやふれま ~~と~~ あのみ河うはま

法眼書頌

わらきん川にわたしと流流る  
月かそ ~~と~~ らんや ~~と~~ ひ乃え

藤原文躬

も ~~は~~ こ ~~と~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち  
を ~~く~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち

宗初法師

に ~~は~~ こ ~~と~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち  
あ ~~い~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち  
あ ~~い~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち

ちん法一

あ ~~ま~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち  
つ ~~お~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち ~~と~~ ち

宗雄法師

あ ~~ま~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち ~~の~~ ち

いふかきしるを法極此なり

津師澄胤  
持神幼之澄胤

ちきりくもく魚のね後めさすしふ  
まゝたりひくふひ乃かかした

法橋遍載

かたりくもく魚と備らぬ物さ里  
又福なりお終い麻となりし

権大信都心敬

く魚ふもたかきしるを法極此なり

西よりむふを終ふこもりなり

智遍法師

東よりまきと都よりあひく





ひんしるるは旅にま

校中細文流

ちさきてもういふはなれりやまふ

法橋如春

かろくもさうはるるはなれりやまふ

ふしはるるはなれりやまふ

橋大納言如春

ふしはるるはなれりやまふ



